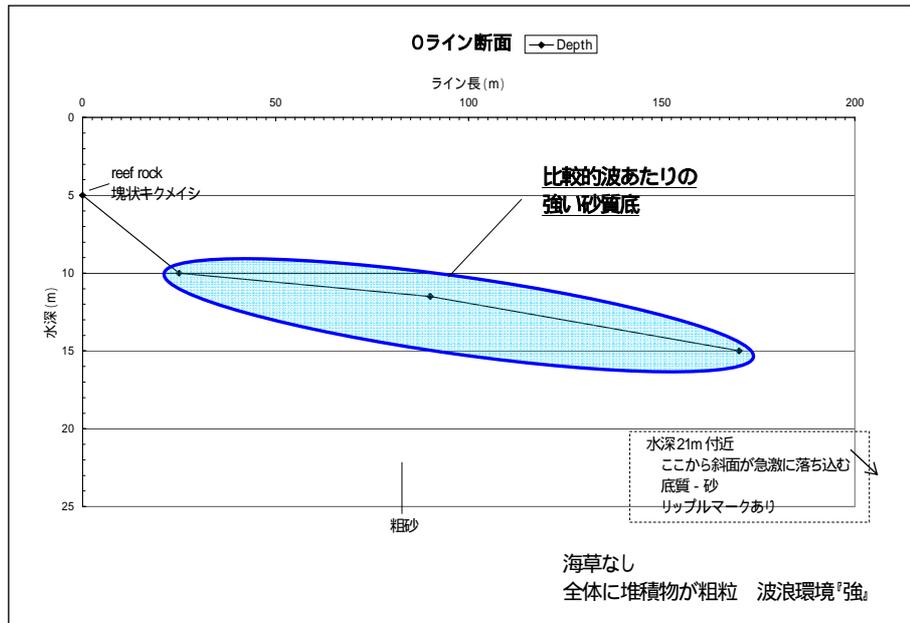


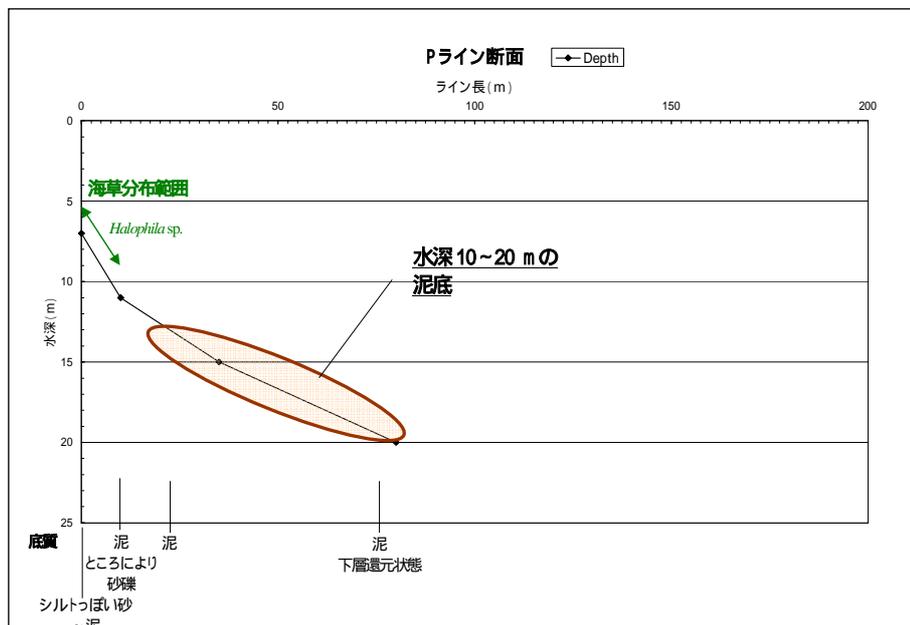
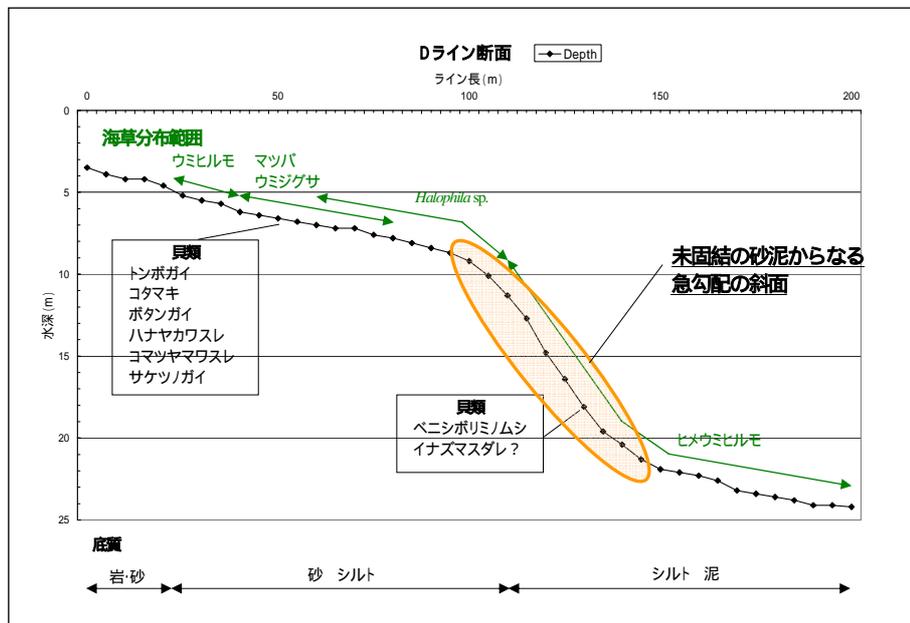
図1 大浦湾 ライトランゼクト・測深調査データ

ライトランゼクト調査データ
(2006.1.15・2006.9.21)



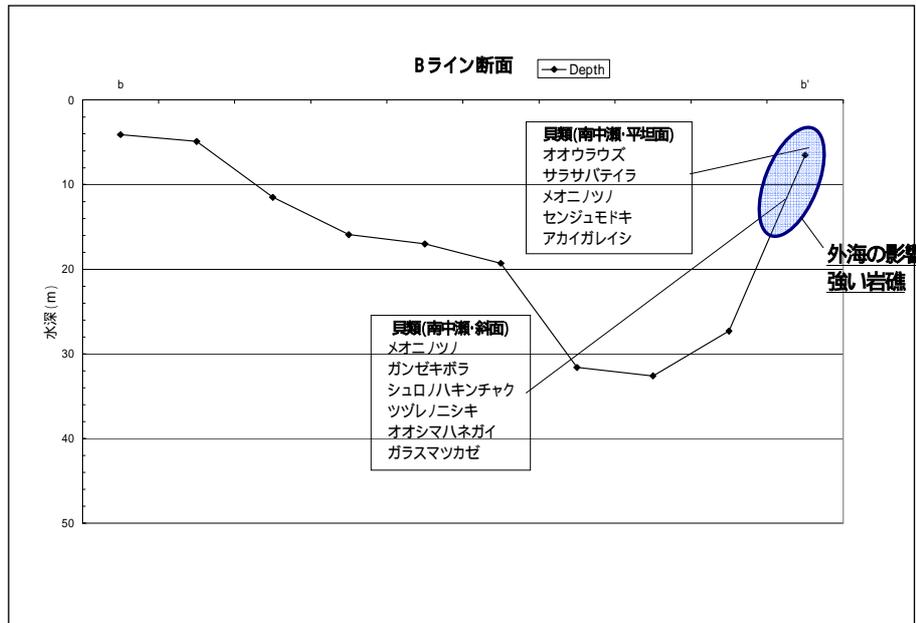
Dライン断面の貝類調査からわかること

主に海底の泥の多さによって生息している生息している貝類に違いが認められ、その中には、沖縄の他地域では比較的少ない巻貝類のベニシボリムシ (*Vexillum stainforthi*) のような種も存在しており、この場所が比較的健全な環境であることが推測される。

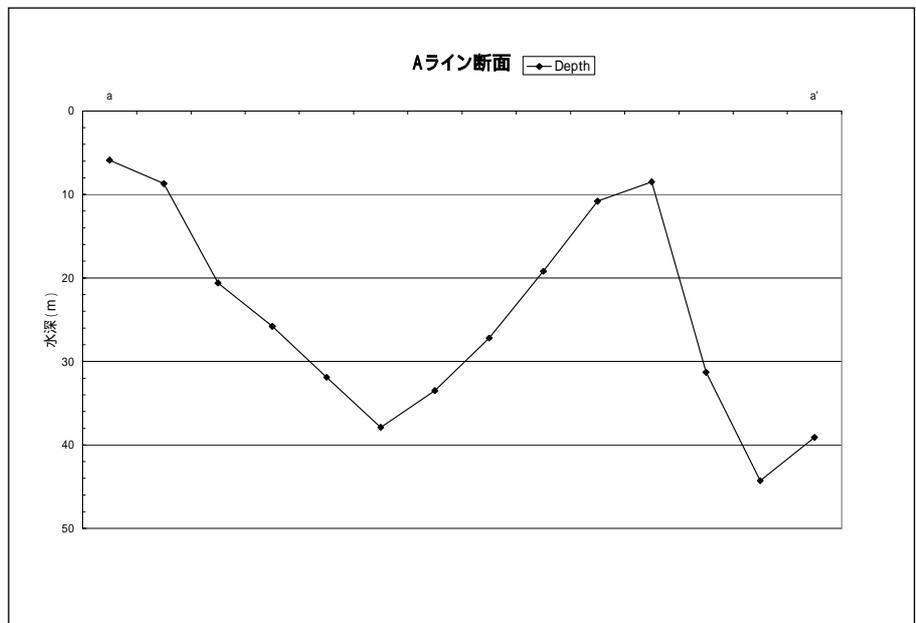


測深調査データ
(2006.1.14)

南中瀬での貝類調査からわかること
二枚貝類のシュロノハキンチャク (*Anguipecten superbus*) 等の、通常、残波岬のような潮通しのよい外海に生息する貝や、リーフ上の貝類相が確認でき、湾内にこのような環境が存在していることは、比較的珍しい。

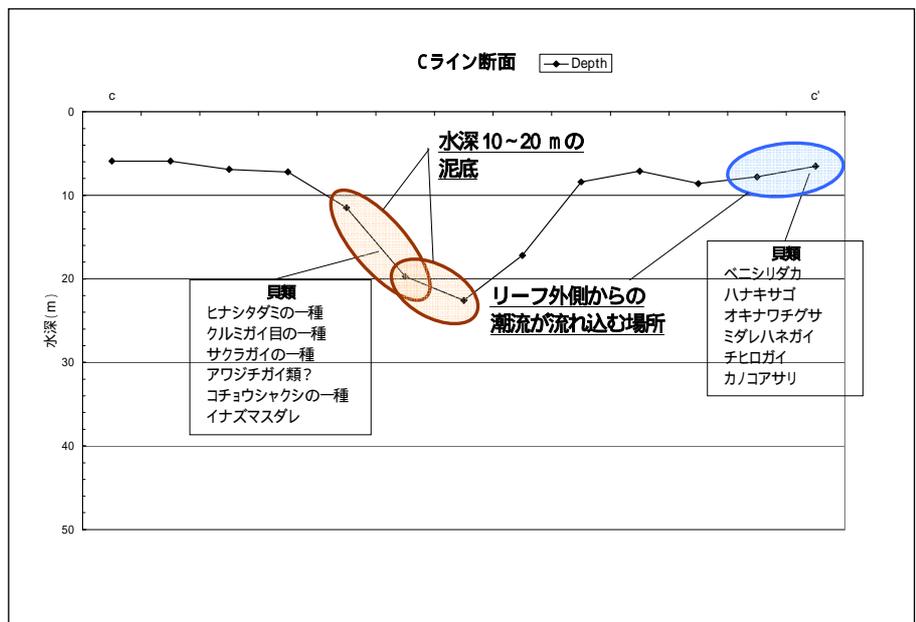


湾口 ↑



Cライン断面の貝類調査からわかること

水深約 18m 地点では、沖縄でほとんど報告のないクルマガイ目的一种やコチョウシャクシの一種などの二枚貝類が確認され、沖縄では稀な内湾の上部浅海带泥底の特異な貝類群が存在することが確認された。また、水深約 55m 地点では、ベニシリダカ (*Tectus conus*)、ハナキサゴ (*Camitia rotellina*) といった辺野古のサンゴ礁域でも見られた種が多く確認され、この地点には、リーフ外側からの潮流が流れ込んでいることがわかった。



湾奥 ↓